

# 2019ラグビーワールドカップ期間中の バルイイベントによる地域活性化

—東大阪ラグビーバルを事例として—

石 原 肇<sup>†</sup>

Regional Revitalization through *Baru Ibento* (Bar Event) during  
The 2019 Rugby World Cup: A Case Study of A “Rugby Bar” in  
Higashi-Osaka City

ISHIHARA Hajime<sup>†</sup>

## 要 旨

バルイイベントは地域活性化のためには単発ではなく継続開催することが重要である。筆者は、前報において、東大阪市の3地域で行われているバルイイベントが地域的特性に応じた運営方法を行い、継続開催してきていることを把握した。2019年秋、日本では国際的メガスポーツイベントの一つであるラグビーワールドカップが開催され、東大阪市の花園ラグビー場は、その会場の一つとなった。東大阪市内でバルイイベントを行っていた3地域では、ラグビーワールドカップの開催に合わせたバルイイベントの開催を東大阪市内に働きかけ、同市全域で「東大阪ラグビーバル」が開催されるに至った。そこで本稿では、「東大阪ラグビーバル」が開催されるに至る経過、実際の運営状況を把握することを目的とする。これは、2020年に開催される国際的メガスポーツイベントである東京オリンピック開催に係る都市における地域でのイベントの取組み等の参考にもなるであろう。

キーワード：バルイイベント，国際的メガスポーツイベント，ラグビーワールドカップ，  
花園ラグビー場，東大阪市

**Keywords** : *Baru Ibento* (Bar Event), International Mega Sports Event,  
Rugby World Cup, Hanazono Rugby Field, Higashi-Osaka City

---

<sup>†</sup> 大阪産業大学 デザイン工学部環境理工学科教授

草稿提出日 11月15日

最終原稿提出日 12月27日

## 1 はじめに

夏季オリンピックやサッカーワールドカップと並ぶ国際的メガスポーツイベントであるラグビーワールドカップが2019年にアジアで初めて日本で開催された。ラグビーワールドカップ2019日本大会では、日本代表が世界の強国を破り、初めてベスト8に進出したことから、日本国内で大いに盛り上がりとともに、その躍進が世界各国からも注目された。また同時に、試合は全国各地の12開催都市で行われ、ホスト国である日本のホスピタリティの高さも世界に発信された。

12開催都市の1つが花園ラグビー場のある「ラグビーのまち」大阪府東大阪市である。筆者は、これまで東大阪市の3地域で行われている地域活性化策であるバルイベントについて、それらの運営方法を比較し報告した（石原，2019）。バルイベントは、まちゼミや百円商店街と並ぶ中心市街地の活性化策の一つとして注目されている（長坂他，2012）。2004年の「函館西部地区バル街」の開催が端緒となり、全国各地での開催が飛躍的に増加してきた。松下（2013）は、「函館西部地区バル街」について、バル街とは、西部地区とバル街マップ（ガイドマップ）、ピンチョー（つまみ）の3つで構成されている飲み歩きイベントであるとしている。参加者は、例えば「函館西部地区バル街」では、1冊5枚のチケットを3,500円で購入し、飲食店はチケット1枚で1ドリンク・1フードを提供するものとなっている。

バルイベントは地域活性化のためには単発ではなく継続開催することが重要であり、地域的特性に応じた運営方法を把握する観点から、石原（2019）では東大阪市の3地域で行われているバルイベントである「布施えびすバル」「なのはなバル」「長瀬酒バル」について比較した。その結果、比較的近接する3地域で実施しているにも関わらず、チケット方式、リストバンド参加証方式、チラシ持参といったそれぞれ異なる運営方法で実施されていた。それぞれの実行委員会が目指すバルイベントの姿、バルイベントの実施範囲にある商店街の規模、飲食店の割合、市からの助成の有無、事務局機能の担い手の差異などを背景に、それぞれが適切であると判断した方法がとられたからだと考えられ、また、このことはバルイベントが地域の実情に適った運営方法のとれる柔軟なイベントであることを示唆していると考えられた。また、この調査過程で、花園ラグビー場がラグビーワールドカップ日本大会2019の試合会場となっていることから、同大会の開催時期に合わせて東大阪市全域で取り組む「東大阪ラグビーバル」が企画されていることに触れた。

杉山・二村（2017）は、英語圏人文地理学における「酒精・飲酒・酩酊」に関する研究動向を報告し、日本における今後の事例研究に向けて課題を提起している。これによれば、

日本の地理学においても、アルコールと関連づけて飲食街、繁華街、盛り場あるいは余暇空間を論じる研究が一定数発表されてきたとし、公共空間における飲酒規範の社会史の究明は極めて地理学的な課題といえるとしている（杉山・二村，2017）。このような中、池田他（2017）による国際的メガスポーツイベントである2020年の東京オリンピック開催を控えた東京のナイトライフに関するクラブやライブハウスに着目した研究がみられるが、飲食施設の運営が対象となっており、公共空間を回遊するイベントを対象としたものではない。バルイベントはまちなかという公共空間で開催され、また、バルイベントの参加者は飲酒しながらまちなかを回遊行動する。日本におけるアルコール・スタティーズを展開していく必要性の観点からも地理学的なアプローチが必要とされよう。

そこで、本稿では、国際的メガスポーツイベントであるラグビーワールドカップ2019の開催を機に、花園ラグビー場のある「ラグビーのまち」東大阪市で行われた「東大阪ラグビーバル」について、開催されるに至る経過、実際の運営状況を把握することを目的とする。

## 2 研究対象地域および研究方法

### （1）研究対象地域

東大阪市は、大阪府中河内地域に位置する市である（図1）。市域の面積は61.81km<sup>2</sup>、人口は502,784人（2015年国勢調査）であり、大阪市および堺市の両政令指定都市に次ぐ府内第3位の人口を擁する中核市である。東大阪市は、大阪平野の東部に位置し、市域の大半は平坦な低地であるが、市東部は生駒山地の山々が連なり、豊富な自然が残されている。日本有数の中小企業の密集地であり、高い技術を持った零細工場が多数集まっている。また、花園ラグビー場のある「ラグビーのまち」としてアピールする形でまちづくりが行われている。

図2に示すように、東大阪市には、JR

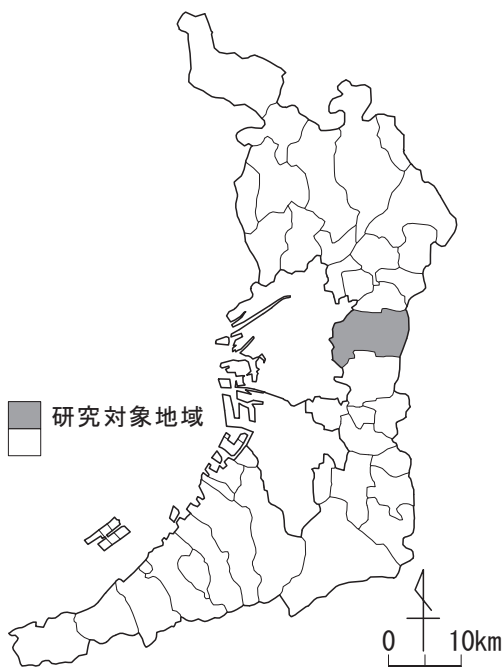


図1 研究対象地域



図2 東大阪市の交通および花園中央公園の位置

資料：Microsoft「Bing Maps」より作成

学研都市線，JRおおさか東線，近鉄奈良線，近鉄大阪線，近鉄けいはんな線，Osaka Metro中央線の6つの鉄道路線が走り，西は大阪市内や阪神方面へ，東は奈良やけいはんな学研都市へつながっている。また広域交通をにう道路が縦横に整備されており，自動車専用道路では近畿自動車道，阪神高速道路東大阪線，第二阪奈有料道路が，主要幹線道路では府道大阪中央環状線，国道170号線，国道308号線がある。

東大阪市の商業集積地域をみておこう。『東大阪市商業振興ビジョン』（東大阪市，2010）では，図3に示す布施，河内永和，河内小阪，八戸ノ里，若江岩田，河内花園，瓢箪山，石切，長瀬，弥刀，大蓮，徳庵，鴻池新田の13商業集積地域を対象としており，すべての集積地域が近隣型の要素を持ち，また個性化を図ることを通じて広域観光型の要素も入ってくる地域もあると位置づけられている。

つぎに，花園ラグビー場の位置を確認しておこう。花園ラグビー場は，大阪府

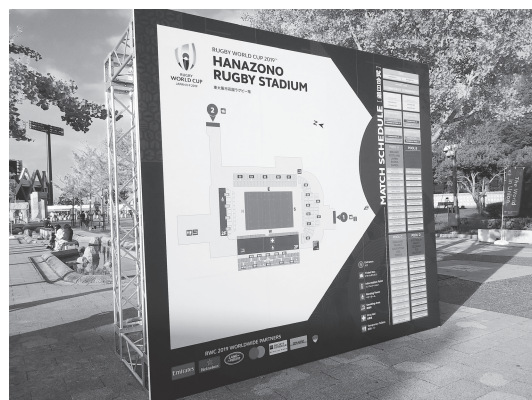


写真1 花園中央公園入口の花園ラグビー場案内図

資料：2019年10月13日，筆者撮影



2019ラグビーワールドカップ期間中のバリエーションによる地域活性化—東大阪ラグビーパルを事例として—（石原 肇）

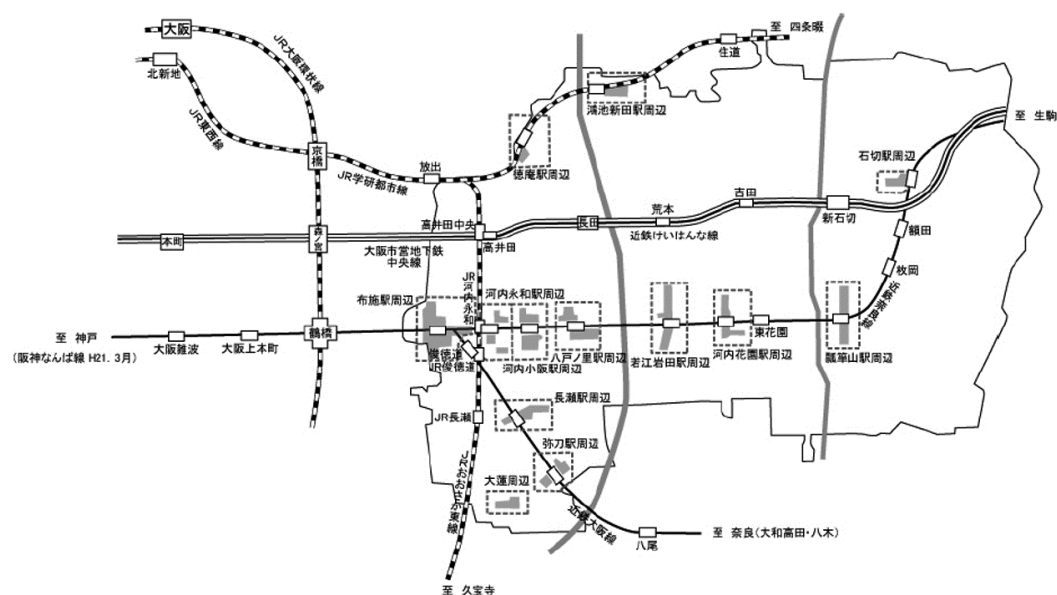


図3 商業集積地域の位置図

資料：『東大阪市商業振興ビジョン』（東大阪市，2010）より引用

東大阪市松原南1丁目に位置し、東大阪市が所有・整備する都市公園である花園中央公園の中にある（図2，写真1）。1929年に花園ラグビー場は近鉄により開場し、90年近く、日本ラグビーの歴史とともに歩んできた。国内有数のラグビー専用球技場であり、全国高等学校ラグビーフットボール大会の会場としても知られ、同大会は「花園」との通称で呼ばれている。また、社会人ラグビーリーグであるジャパンラグビートップチャレンジリーグに所属する近鉄ライナーズのホームグラウンドとして使用される。2015年3月に、花園ラグビー場がラグビーワールドカップ2019の会場に選定され、同年4月1日からは東大阪市が所有するようになり東大阪市花園ラグビー場になった（写真2）。近鉄奈良線東花園駅から徒歩10分、近鉄けいはんな線吉田駅から徒歩15分となっている。ラグビーワールドカップ2019の試合が開催される日には、吉田駅から臨時シャトルバスが運行された。



写真2 花園ラグビー場とラグビーワールドカップ2019のオフィシャルグッズ販売

資料：2019年10月13日，筆者撮影

## (2) 研究方法

まず、「東大阪ラグビーバル」の開催に至る経過については「布施えびすバル」の実行委員長である元光一倫氏に、運営の状況については「なのはなバル」の事務局を務める特定非営利活動法人週刊ひがしおおさかの代表である前田寛文氏にそれぞれヒアリングを行った。また、「東大阪ラグビーバル」の開催にあわせて「長瀬酒バル」と「なのはなバル」が実施されている。「長瀬酒バル」の状況については長瀬酒バル初代実行委員長の網野修一氏に、「なのはなバル」の状況については前出の前田寛文氏にそれぞれヒアリングを行った。

つぎに、「東大阪ラグビーバル」の実施状況を把握するため、以下のとおり現地観察を行った。2019年9月7日に準備状況を把握するため布施の現地観察を行った。同年10月3日に、日本代表の試合のパブリックビューイングが行われた布施の現地観察を行った（写真3）。同年10月13日に花園ラグビー場でアメリカ対トンガの試合があることから花園ラグビー場周辺と日本代表の試合のパブリックビューイングが行われた布施の現地観察を行った。くわえて花園ラグビー場での試合がなく日本代表の試合のパブリックビューイングもない10月17日の布施および長瀬の現地観察を行った。また、「東大阪ラグビーバル」の開催期間に前後して、従前から継続開催してきている「長瀬酒バル」と「なのはなバル」が開催されたことから、2019年9月7日に「長瀬酒バル」の、同年10月20日に「なのはなバル」の現地観察をそれぞれ行った。これらの情報を総合して考察を行う。

## 3 調査結果

### (1) 「東大阪ラグビーバル」の実施に至るまでの経過

2019年6月に、筆者は前報の研究目的である東大阪市の3地域で行われているバルイベントの運営方法を比較するため、3地域それぞれの事務局にヒアリングを行った。その際、「布施えびすバル」の実行委員長である元光一倫氏が、「なのはなバル」の前田寛文氏や「長瀬酒バル」の網野修一氏に「東大阪ラグビーバル」への共同参画を相談していた。それ以前の段階で元光一倫氏が「東大阪ラグビーバル」の開催を東大阪市に提案し、東大阪市が直接実施する形ではなく、一般社団法人東大阪ツーリズム振興機構が実施する形で事業化されている。

東大阪市の『市政だより』2019（令和元）年6月1日号では（図4）、「東大阪ラグビーバル」参加店舗募集」の記事が掲載されている（東大阪市長公室広報広聴室広報課、2019）。この募集記事では、「ラグビーワールドカップ2019日本大会の開催期間にあわせ、

観戦客や観光客に東大阪のグルメを楽しんでもらう「東大阪ラグビーバル」を開催します。市内の飲食店に、イベント限定の500円均一のスペシャルメニューを提供してもらいます。飲食店やスペシャルメニューは、パンフレットやウェブサイトでPRします。」と記載しており、参加対象は「市内で店内に飲食スペースがある店舗、※テイクアウト専門店は対象外。」とし、料金は5,000円となっている。問合せ先は一般社団法人東大阪ツーリズム振興機構としており、参加申込み締切日は6月30日（日）で、申込み先は東大阪ラグビーバル実行委員会（週刊ひがしおおさか内）となっており、「なのはなバル」の前田寛文氏が担っている。

## （2）ラグビーワールドカップ2019の試合日程と「東大阪ラグビーバル」等の実施状況

ラグビーワールドカップ2019日本大会の試合日程と「東大阪ラグビーバル」等の開催状況を示したのが表1である。「東大阪ラグビーバル」の開始日は2019年9月20日で、日本代表の予選プール第1試合の日となっている。また、最終日は2019年10月20日で、日本代表が予選プールにおいて4戦全勝で決勝トーナメントに進み、南アフリカとの準々決勝が行われた日となっている。他方、この間に、東大阪市内の花園ラグビー場では予選プール4試合が行われている。このうち、9月28日と10月13日の2日は、昼に花園ラグビー場でアルゼンチン対トンガの試合、アメリカ対トンガの試合がそれぞれ行われ、各日の夜には日本代表がアイルランド、スコットランドとそれぞれ対戦している。日本代表の試合は布施クレアホールを会場としてパブリックビューイングが実施されている（写真3、4）。

なお、「東大阪ラグビーバル」の開催に先立ち、「長瀬酒バル」が2019年9月7日と8日の2日間開催されている。また、「なのはなバル」は「東大阪ラグビーバル」の最終日に合わせ、2019年10月20日に開催されている。



図4 東大阪市政だよりの「東大阪ラグビーバル」参加店募集記事

資料：東大阪市長公室広報広聴室広報課（2019）より引用

表1 「東大阪ラグビーバル」の開催日程等

月	日	曜日	東大阪 ラグビーバル	ラグビーワールドカップ2019		パブリック ビューイング	市内個別 バルイベント
				花園ラグビー場の試合	日本代表の試合		
9	7	土					長瀬酒バル
	8	日					長瀬酒バル
	・	・					
	20	金	開始日		対ロシア		
	21	土					
	22	日		イタリア対ナミビア			
	23	月					
	24	火					
	25	水					
	26	木					
	27	金					
	28	土		アルゼンチン対トンガ	対アイルランド	クレアホール・ふせ	
	29	日					
	30	月					
10	1	火					
	2	水					
	3	木		ジョージア対フィジー			
	4	金					
	5	土			対サモア	クレアホール・ふせ	
	6	日					
	7	月					
	8	火					
	9	水					
	10	木					
	11	金					
	12	土					
	13	日		アメリカ対トンガ	対スコットランド	クレアホール・ふせ	
	14	月					
	15	火					
	16	水					
	17	木					
	18	金					
	19	土	▼				
	20	日	最終日		対南アフリカ	クレアホール・ふせ	なのはなバル

資料：東大阪ラグビーバルガイドマップブックおよびラグビーワールドカップ2019HP，東大阪市HP，長瀬酒バルHP，なのはなバルHPより作成





写真3 ラグビー WC2019日本代表の試合のパブリックビューイング（クレアホール布施）

資料：2019年10月6日、筆者撮影



写真4 パブリックビューイング会場（クレアホール布施）に並ぶ観客

資料：2019年10月13日、筆者撮影

### （3）「東大阪ラグビーバル」等への参加飲食店と運営方式

「東大阪ラグビーバル」の参加飲食店舗数をみると、東大阪市内全域で162店舗となっている。東大阪ラグビーバルガイドマップブックをみると（図5）、東大阪市を6区域に分けて参加飲食店の位置を明示している（図6）。6区域ごとの参加店舗数をみると、Aエリアの布施－永和－俊徳道は62店舗、Bエリアの長瀬は33店舗、Cエリアの小阪－八戸ノ里は21店舗、Dエリアの若江岩田－花園－東花園の15店舗、Eエリアの瓢箪山は21店舗、Fエリアの鴻池新田－荒本－長田－高井田は10店舗となっている（表2）。『東大阪商業振興ビジョン』（東大阪市、2010）で示された13商業集積地域（図3）のうち、弥刀、大蓮、徳庵の3地域を除く10地域である布施、河内永和、河内小阪、八戸ノ里、若江岩田、河内花園、瓢箪山、石切、長瀬、鴻池新田で参加飲食店舗がみられる。このように東大阪市のほぼ全域で飲食店が「東大阪ラグビーバル」に参画しており、市を挙げての取り組みで



図5 「東大阪ラグビーバル」のガイドマップブックの表紙

資料：東大阪ラグビーバル実行委員会（2019）より引用

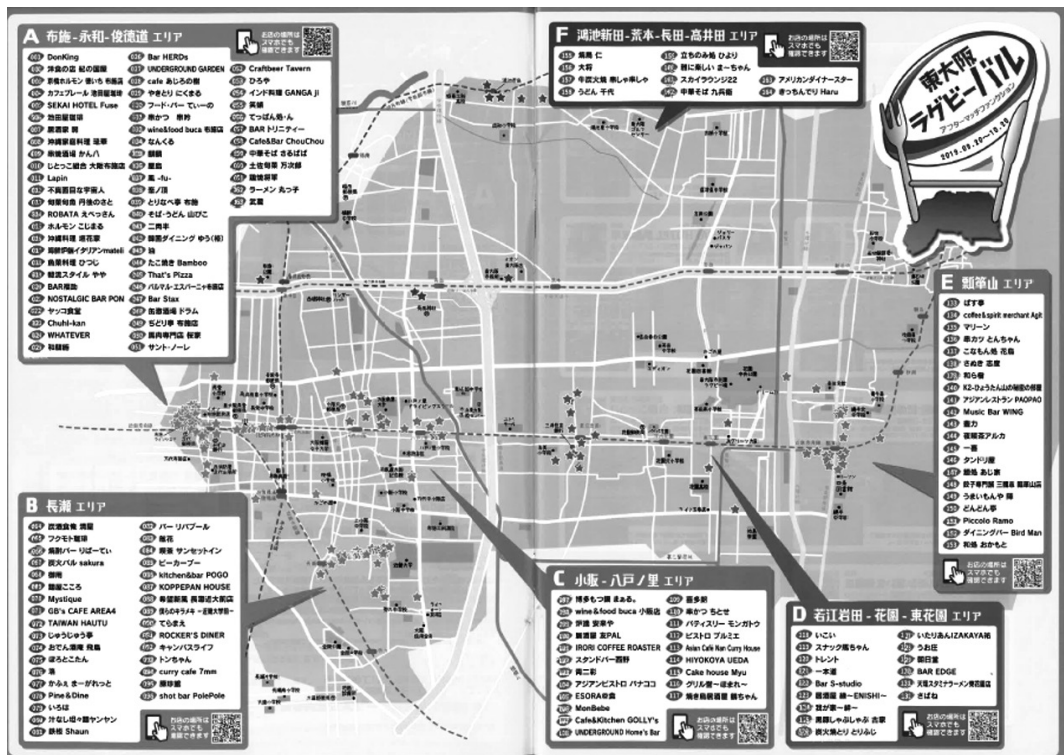


図6 「東大阪ラグビーボール」のガイドマップブックのマップ

資料：東大阪ラグビーボール実行委員会（2019）より引用

表2 「東大阪ラグビーボール」のエリア別参加店舗数

	エリア	店舗数
A	布施・永和・俊徳道	62
B	長瀬	33
C	小阪・八戸ノ里	21
D	若江岩田・花園・東花園	15
E	瓢箪山	21
F	鴻池新田・荒本・長田・高井田	10
	計	162



図7 「東大阪ラグビーボール」のガイドマップブックのスタンプラリー

資料：東大阪ラグビーボール実行委員会(2019)より引用

あることがうかがわれる。また、6区域を回るスタンプラリーが設定されており、市内全域を参加者が回遊するような仕組みが入っている（図7）。参加者は東大阪ラグビーバルガイドマップブックを参加店舗に提示することで、ワンコイン（500円）でバルメニューの提供を受けられる（写真5）。

「東大阪ラグビーバル」開催の声掛けを行った元光一倫氏によれば、「東大阪ラグビーバル」の取組結果をみると、印刷した東大阪ラグビーバルガイドマップブックが全てはけており、花園ラグビー場での試合開催日であるか、あるいは日本代表の試合のある日にかかわらず、一定程度の参加者がいろいろな店に足を運ばれているようだとのことであった。また、東大阪市内の各地域の飲食店のつながりができる機会となったとのことであった。東大阪ラグビーバル実行委員会の事務局を担った前田寛文氏によれば、「東大阪ラグビーバル」を市内全域で開催したが、今後引き続きこの形態で実施する機会があるかについては直ぐに結論は出せないものの、東大阪市の観光資源でもある花園ラグビー場を核とした地域活性化イベントを行えたことの意義は大きいとのことであった。参加店舗への参加者の利用状況の数字はまだ出ていないが、花園ラグビー場の最寄り駅である東花園駅を通る近鉄奈良線沿線駅での利用が多く、それ以外の地域ではやや少ないようであるとのことであった。

「東大阪ラグビーバル」の開催に先立ち実施された「長瀬酒バル」の参加店舗数は21店舗となっている（写真6）。「長瀬酒バル」は5回目の開催にあたるが、これまでと比べて最も参加店舗数が増えている（表3）。このため、従前のチラシはA4版であったが、5回目のそれはB4版となっている（図8）。「長瀬酒バル」は従前からと同様に5回目もチラシを持っていけばよく、各参加店舗で1コイン（500円）を支払う方式を踏襲している。開催地域は従前の範囲と変化はみられない



写真5 クレアホール布施近辺の「東大阪ラグビーバル」の参加店舗

資料：2019年10月13日、筆者撮影



写真6 「長瀬酒バル」の参加店舗

資料：2019年9月7日、筆者撮影



表3 「長瀬酒バル」の開催の推移

回	開催年月日	参加方法	参加店舗数 (軒)	店舗の属性
1	2014年7月4日(金)～6日(日)	チラシの持参	10	カウンターのある飲食店のみ
2	2016年9月10日(土)・11日(日)	チラシの持参	8	カウンターのある飲食店のみ
3	2017年9月9日(土)・10日(日)	チラシの持参	15	カウンターのある飲食店のみ
4	2018年9月8日(土)・9日(日)	チラシの持参	12	カウンターのある飲食店のみ
5	2018年9月7日(土)・8日(日)	チラシの持参	21	カウンターのある飲食店のみ

資料：石原（2019）の表に第5回のチラシからの情報およびヒアリングの情報を加えて作成



図8 「長瀬酒バル」のチラシ

資料：長瀬酒バル実行委員会（2019）より引用



図9 「なのはなバル」のバルマップを折りたたんだ際の表紙

資料：なのはなバル実行委員会（2019）より引用

表4 「なのはなバル」の開催の推移

回	開催年月日	参加方法	参加店舗数 (軒)	店舗の属性
1	2013年3月3日(日)	チケット制	48	飲食店のみ
2	2014年3月16日(日)	チケット制	69	多業種
3	2015年3月15日(日)	チケット制	54	多業種
4	2016年3月13日(日)	チケット制	44	多業種
5	2017年3月12日(日)	チケット制	49	多業種
6	2018年5月26日(土)・27日(日)	リストバンド型参加証	34	多業種
7	2019年10月20日(日)	リストバンド型参加証	41	多業種

資料：石原（2019）の表に第7回のガイドマップおよびヒアリングの情報を加えて作成

2019ラグビーワールドカップ期間中のバルイベントによる地域活性化—東大阪ラグビーバルを事例として—（石原 肇）

（図8）。「長瀬酒バル」の状況について、長瀬酒バル初代実行委員長の網野修一氏によれば、従前からの開催と同様に、客足は伸びている状況であったとのことである。

「なのはなバル」は「東大阪ラグビーバル」の最終日に合わせているが、参加店舗数は41店舗となっている（表4）。「なのはなバル」は7回目に当たるが、第6回に導入したリストバンドによる参加証方式を踏襲している（図9）。リストバンド参加証は、前売り600円、当日700円で販売され、「なのはなバル」参加店舗で、リストバンド参加証を示すことにより500円でバルメニューを利用できる（写



写真7 「なのはなバル」の本部

資料：2019年10月20日、筆者撮影



図10 「なのはなバル」のバルマップ

資料：なのはなバル実行委員会（2019）より引用



真7)。開催地域は従前の範囲と変化はみられない(図10)。「なのはなバル」の状況について、前出の前田寛文氏によれば、開催日が2019年10月20日と日曜日であったことから、夕方までは参加者が多くみられたが、ラグビーワールドカップ2019準々決勝の日本対南アフリカの試合が始まる前あたりから、客足は激減してしまったとのことであった。

#### 4 「東大阪ラグビーバル」実現の要因と今後の課題

本稿では、ラグビーワールドカップ2019日本大会の開催に合わせて「ラグビーのまち」東大阪市で行われた「東大阪ラグビーバル」の開催に至る経過や開催状況をみてきた。これから以下のことがいえよう。

第1に、東大阪市において市内全域で「東大阪ラグビーバル」を開催できたのは、これまで「布施えびすバル」「なのはなバル」「長瀬酒バル」といった個々の地域でバルイベントを継続開催してきたことで、「東大阪ラグビーバル」を実施する基盤ができていたと考えられる。通常は別々の運営方法でバルイベントを実施しているが、関係者間で調整し、統一の方法がとられた。また、実質的な事務局機能を「なのはなバル」の前田寛文氏が担ったことが大きいと考えられる。

第2に、ラグビーワールドカップ2019の試合を観に来た滞在期間の短い市外からの来訪者には「東大阪ラグビーバル」の開催自体が十分浸透していなかったと思われる点がある。花園ラグビー場の最寄り駅である近鉄奈良線の東花園駅界隈で「東大阪ラグビーバル」に参画した店



写真8 花園ラグビー場近辺の「東大阪ラグビーバル」の参加店舗

資料：2019年10月13日、筆者撮影

舗は極めて少ない(写真8)。このため、東大阪市内の他のエリアに立ち寄る機会がなければ、「東大阪ラグビーバル」の開催が気付かれにくい。一方、東大阪市民にとっては、約40日間という「東大阪ラグビーバル」の開催期間に参加飲食店を利用できる機会があり、利用価値があったと思われる。

第3に、東大阪市の市域面積が広く、近鉄奈良線沿線の地域とそれ以外の地域では、「東大阪ラグビーバル」の利用者に差異があったことが、今後の課題としてあげられていることである。これは、花園ラグビー場との行き来のしやすさが影響している可能性がある。

2019年11月2日、ラグビーワールドカップ2019は南アフリカ共和国が3度目の優勝に輝き閉幕した。その後、日本ではラグビーワールドカップ2019の12開催都市を拠点としたプロリーグ発足の構想や、再び日本にラグビーワールドカップを誘致する話題などが報道されている。今後また花園ラグビー場を舞台としたメガスポーツイベントが開催される可能性もある。

今回の「東大阪ラグビーバル」の開催は、今後改善すべき課題は当然あるものの、ラグビーワールドカップというメガスポーツイベントの開催に合わせてバルイベントという地域活性化策を市内全域で実施したことそのものに意義があり、これは市内の個々の地域でのバルイベント開催からでは得られない市内全域でのバルイベントの取組みという新たな実績といえよう。また、今回の実施により市内全域での参加飲食店の横の繋がりが形成される契機ともなっている。このことは、バルイベントのみならず、今後、市内全域という広域での地域活性化策を展開する上で参考となる取組みであったといえよう。さらに、2020年に開催される国際的メガスポーツイベントである東京オリンピック開催に係る都市における地域でのイベントの取組み等の参考にもなるであろう。

## 謝辞

本稿を作成するにあたりヒアリングへの対応をいただいた布施えびすバル実行委員長の元光一倫氏、なのはなバルの事務局を務める特定非営利活動法人週刊ひがしおおさかの代表である前田寛文氏、長瀬酒バル初代実行委員長の網野修一氏の各氏にお礼を申し上げる。

## 参考文献

池田真利子・卯田卓矢・磯野 巧・杉本興運・太田 慧・小池拓矢・飯塚 遼「東京におけるナイトライフ観光の特性 ―夜間音楽観光資源としてのクラブ・ライブハウスに着目して―」『地理空間』第10巻第3号、2017年、149-164ページ。

石原 肇「東大阪市内3地域におけるバルイベントの運営方法の地域的特性」『大阪産業大学論集 人文・社会科学編』第37巻、2019年、95-116ページ。

杉山和明・二村太郎「英語圏人文地理学における「酒精・飲酒・酩酊」に関する研究動向 ―日本における今後の事例研究に向けて―」『空間・社会・地理思想』第20巻、2017年、97-108ページ。

東大阪市『東大阪市商業振興ビジョン』2010年。

東大阪市長公室広報広聴室広報課『市政だより』（2019年6月1日号）2019年。